

守谷市教育委員会点検評価意見

点検評価員 村田 隆

1 教育委員会

守谷市教育委員会は、いばらき教育プランや第二次守谷市総合計画を基に「守谷市の教育目標（新しい時代をたくましく生きぬく人づくりを目指す）」を掲げられています。学校教育プランでは、グランドデザイン「世界で輝く人づくり」を大目標にして、それを支える5項目が作られています。そして、守谷市の特色ある取組として7項目挙げられ、何れもそれぞれを補完するものであり、人づくりには必要で大切なものになっていると確信します。

平成27年4月1日から「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、「総合教育会議」の設置、責任体制の明確化等を図るため「新教育長」の任命、教育委員会の点検透明化、総合的施策の大綱策定が決められています。本年も定例会12回、臨時会1回、会議での審議件数は35件でした。また、定例会毎に小中学校及び教育委員会事務局から状況報告が上げられ教育現場の実態が掌握される体制が見られました。教育委員会以外の教育委員の活動では、学校訪問（小学校9校、中学校4校訪問）、各研修会、各種行事として小中学校入学式、同運動会・体育祭、同卒業式、その他の行事で守谷ハーフマラソン、成人式等各種行事に積極的に参加され多忙になっています。予算配分は、前年度比微減でした。税収との関係もありますが、今後維持されることを望みます。以上のことから、確実着実に施策等が実行され、特筆される問題等も無く順調に確実に業務が進められているように感じています。

今後、教育行政は新しい風が次々吹いてくるように思います。次回、学習指導要領改定も控えており、体制作りにも苦慮されることもあるかと思いますが、早めの準備等でスムーズに対応されるよう願います。

2 学校教育・指導室事業

(1) 教育環境の整備・充実

平成28年度は、第2期教育振興基本計画目標の児童生徒3.6人当たり1台以上のタブレット端末を配備。高機能かつ多様な学習環境が確保されたこと。そして、ICT支援員配置と小中学校教科書準拠各小中学校に指導者用デジタル教科書で学力向上が図られました。今後、校務の情報化で経費削減等が図れるとのこと。目標は1人当たり1台のタブレット端末確保ですが、まずは歓迎です。今後、校務支援システム導入で先生方の校務削減で長時間残業削減につながれば更に歓迎です。平成28年度は、大井沢小学校及びけやき台中学校のトイレ改修が行われ、守谷市小中学校13校全てのトイレ便器洋式化と床乾式化が完了しました。今後、校舎や体育館等の学校施設については、築30年以上経過し老朽化した施設があり、計画的に大規模改修が必要です。体育館のトイレも順次改修が必要です。郷州小学校体育館の大規模改修工事が完了しました。この3年間で綺麗なトイレが予定どおり実現しました。誰もが願うものです。今後、汚さない、児童の黙働清掃励行等職員とともに注視して行く事が必要です。他市では、全

校のトイレ便器洋式化床乾式化は未だ見られないと思います。教育委員会の取組に感謝いたします。通学路の安全点検が平成24年度から毎年実施されています。児童生徒の登校下校時の安全対策は重要です。道路路面表示書き直し、危険交差点の見守り等通学補助員配置見直しを含め、考えていかねばなりません。9月1日に実施された災害時児童生徒引渡し訓練等、何れも予防対策として重要です。特に下校時、児童生徒が事故に合わないよう努めねばなりません。歩道を歩いていても車にはねられる事故が過去にありました。自転車の安全な乗り方教室等も含め、安全対策が必要です。児童生徒の登下校時の事故を無くすため、現在も行われています教育委員会、PTA関係者、青色パト、防犯連絡員等の地域ボランティア防犯パトロール等の継続が求められます。

(2) 学校教育プラン

① ステップアッププラン (確かな学力の向上)

確かな学力の定着については、「茨城県学力診断のためのテスト」の結果は、市全体としては、小学3年生から中学校3年まで全て県平均を上回り、十分定着しているようです。平成27年度小学6年生は、県平均を12.1ポイント、翌平成28年度中学1年生の県平均と比較して15.6ポイントそれぞれ上回る結果が出ています。しかし、個人差への対応も丁寧に取り組むことが求められます。守谷小学校、郷州小学校に理科専任教員を配置した結果、理科への関心が高まったことも良い成果です。平成25年度に配置基準を拡充(小1で26人以上)した学習支援ティーチャーを小学校に34名、中学校に7名配置した結果、児童生徒の生活習慣や学習習慣の確立と学力向上が見られ、良い結果が得られています。やはり先生方の努力がそれぞれ表れた結果と思われます。思考力、判断力、表現力の育成と学習意欲の向上では、市の指定を受けた2校(大野小学校、愛宕中学校)が研究発表会を行いそれぞれに大きな成果を上げています。大野小学校では、学習課題を工夫し、課題解決をペア学習にして、それぞれ自分の考えを持ち、全体で共有する時間を活発にする成果が見られました。愛宕中学校では、『愛宕スタイル』の学び合いを確立し、生徒の学力向上に取り組まれました。いずれも特色ある方法で成果を上げられており、小小、小中の一貫教育の成果と考えられます。個に応じた教育の積極的な推進では、各学校に少人数加配教員、学習支援ティーチャーを積極的に活用して、個に応じた習熟度や課題別の授業等行われ充実が図られました。読書活動の積極的な推進では、「みんなにすすめたい一冊の本」事業では、小学校で50冊以上読んだ児童の割合が84.2%、中学校で30冊以上読んだ割合は11.3%。小学校では県平均を上回り中学校は下回った結果です。読書離れは最近の傾向ですが、中学校は読書意欲向上に努めねばなりません。

② ハートフォーヒューマンプラン (豊かな心をはぐくむ教育の推進)

「早寝、早起き、朝ごはん」運動を推進し、望ましい基本的生活習慣の定着と生活リズムの向上、エンゼルサポートプランを活用し、発達段階に応じた指導、『わたしたちの守谷しぐさ』を活用した特別活動等それぞれに取り組まれ、良い成果が出されています。その中で、基本的生活習慣の基盤となる「あいさつ」では、かなり定着化が図られているようです。あいさつとお辞儀を別々にしっかりしたあいさつの声、しっかりしたお辞儀が望まれます。家庭、学校、地域で何時でも、事ある毎にあいさつができること

が重要です。守谷市が勧める保幼小中高一貫教育「きらめきプロジェクト」に伴い、あいさつ運動を積極的に進められることで更に効果が出ると思います。

平成25年度から、守谷市独自の「守谷市いじめ実態調査」が毎月実施されています。いじめの認知件数は、小学校36件、中学校35件計71件（うち、解消57件、継続支援中14件）で、前年と比べ認知数30件増加です。「認知件数が多い＝いじめを見逃さない」ことで、学校と教育委員会、関係機関と連携して、早期解決に向かい大事件にならず、歯止めの役割が大きいと考えます。今後もしっかりと連携して、早期発見早期解決に向けて、取り組まれることを期待します。

教育相談体制の充実では、本年から守谷市総合教育支援センターを設立され、相談件数は、603件（うち、電話相談220件、来所相談238件、訪問相談145件）でした。不登校児童生徒の不登校率は、小学校0.67%、中学校2.34%です。年々不登校出現率が微減ですが、不登校の背景には、児童生徒の情緒的混乱、家庭環境も含めた複合的な事由が考えられます。早期に対応して、各家庭訪問、電話連絡等できめ細かな個別対応が重要です。それに伴い、今後、相談員数が不十分との課題もあり、それぞれ専門の関係機関との連携が求められます。

③ ヘルス&フィジカルプラン（健康と体力をはぐくむ教育の推進）

近年、便利なものが多くなり、生活のなかで、あまり身体を使わなくても生活ができるようになっていきます。そして、食物（高カロリー食品）と運動のバランスが崩れ、運動が一般的に軽くなっています。児童生徒にもその影響が出ているようです。日々歩くことも減って、足腰が弱くなってきています。各学校では、昼休み、業間休み、中学校での部活動等積極的に運動場、体育館等へ出て皆が何かの運動をすれば徐々に改善できると思います。

体力テストA+Bの達成率は、小学校53.64%で県平均より0.64ポイント下回り、中学校が60.07%で県平均より0.64ポイント下回りました。今後とも、全教育活動に運動を取り入れる機会を作り、体力向上に努めてほしいです。

健康教育の充実は、学校医、歯科医、保健センター、警察等関係機関と連携して被害実態を知ることで、その恐ろしさを実感して、健康に対する自己管理能力を高めてほしい。特に、薬物乱用防止、喫煙防止教育等は、警察機関が各学校へ巡回してDVD、展示形式等で行われたのは、大変効果的と思いました。

危機管理、防犯教育について、不審者侵入対策に効果のある防犯カメラの活用、メールマガジンでの情報発信、登下校時の青色パト活用、防災・防火訓練等、引き続き学校、警察、地域が協力体制を結び、被害が発生しないよう取り組んでいかれることを望みます。特に、警察による防犯教室（合言葉ーいかのおすし）で啓発が図られています。

食に関する指導の充実では、栄養教諭を招き授業・給食訪問を実施され、その結果、食事マナーや衛生面に着目する児童生徒が増えたと報告がありました。最近食事マナーで気になるのは、お箸の正しい持ち方、正しい姿勢等が乱れているように思います。一度付いた癖はなかなか改善が難しいと思いますが、家庭も含め早めに改善したいものです。

食物アレルギーを持つ児童生徒には、担任に任せるだけでなく、複数の担任、家庭としっかり連携して事故撲滅を続けてほしい。

④ ニュージェネレーションプラン（新しい時代に対応した教育の推進）

国際理解教育の充実と英語力の向上については、平成28年度児童アンケートでは、「外国語（英語）活動はたのしいか？」91%、「英語を話せるようになりたいか？」92%それぞれ肯定的回答。また、保護者へのアンケート「ALTの全校配置はよいと思う」99%、「子どもの外国語への興味関心が高まった」81%、「外国語活動を参観したことがある」100%と大変好意的報告でした。以前、学校教育の英会話は永遠のテーマと言う人がいましたが、徐々に改善されると思います。ただ、ALT配置が各校1人のため、児童とALTと会話する機会が少ないように感じます。より多くの会話で上達することを考えるとより多く毎日会話する必要があります。

外国語教育の小中連携と充実について、英語への関心を高めるため「英語検定」を積極的に推奨して、平成28年度「中学3学年時における英語検定3級以上の取得率」市全体39.6%です。これは、全国平均取得率18.1%を大きく上回っています。今後は50%を目指して、取り組んでほしい。

情報教育の推進について、ICT支援員を配置して、タブレット端末3.6人に1台以上配置。今後は、教員個々のICT指導力向上に取り組むとのこと、情報教育推進委員を中心に運用拡充に努めていただきたい。一方、「ネットいじめ」が起こっています。保護者へ正しい使い方を周知して、危険性については、親子ともに理解するようにしていただきたい。

環境教育の推進について、総合学習の観点から環境保全として、毎年冬場の休日に利根川、鬼怒川河川敷のクリーン作戦が行われています。地域の方々と環境美化運動に参加するのを勧めたい。

⑤ パートナーシッププラン（開かれた学校づくりと学校・家庭・地域等の連携）

地域社会への授業公開と積極的情報発信について、学校便りの発行、学校ホームページを発信して地域、家庭で大変好評です。これからも充実していただきたい。また、メールマガジンも保護者に好評です。迅速な情報伝達に利用され、今後も情報内容の充実に取り組んでほしい。以前は、地域の協力で学校も支えられた時期がありました。それが最近、やや希薄になってきています。「学校は地域とともにある」と言われています。学習ボランティア、防犯ボランティア等も地域の協力で行われています。今後も児童生徒が、地域とふれあうこと（夏祭り、公民館まつりへの参加等）が多くなれば、地域の人々との交流が更に図られ開かれた学校づくりとして教育効果が大きくなります。

「学校運営協力員会議」の充実について、学校運営についての外部意見として定期的実施されています。授業参観、学校の様子（教室展示、児童生徒の様子、校庭の様子）等を拝見して客観的意見を述べ、学校の更なる充実につながれば良いと思います。

「きらめきプロジェクト」推進について、4年目が経過し、それぞれの有効活用、検証、見直しをされ、充実した内容になって、大きな効果を期待します。

4 給食センター事業

安全安心で安定した学校給食が提供されています。平成28年度は給食実施日192日、1日6、571食（2献立制）。現在、設備能力の限界と思われる給食数です。その中で、各学校の給食主任による毎月1回の会議を開催し、児童生徒からの声を反映され

た献立づくり，食物アレルギーを持つ児童生徒への対応を日々行っておられます。保護者見学会，試食会実績は，松ヶ丘小（見学18名，試食会86名），高野小（見学38名，試食38名），大野小（見学28名，試食会28名）合計試食会のみ23回，延べ757名）でした。保護者に給食センターや給食について理解をしていただいたとのことです。調理ドライ運用の励行等で，食中毒事故の発生はありません。また，食物アレルギーを持つ児童生徒の保護者へ献立明細等配布（80名），そして，給食確認票の提出を受けて，事故撲滅に取り組んでおられます。設備面では，建築後33年経過し不具合箇所の対応に追われています。食数増加による給食供給力も限界近くになっているので，早急に，今後，抜本的な設備能力，運営の在り方等検討する時期に来ているように思います。

5 生涯学習事業

（1）豊かな生活をめざした学習機会の提供・充実と人材バンクの活用

豊かな守谷の自然や野鳥への理解を深めるため，春・秋に自然観察会が開かれ，自然愛護・郷土愛に寄与されている。しかし，指導者の若返りに苦慮されている。

指定管理者による公民館運営2期目の2年目となり，段々と管理がしっかり定着しているように見受けられます。利用者からの評判も上々です。講座・教室等事業は，5つの公民館で実施されました。活発なサークル発足数には至らなかったようです。会員増の件も同様です。各公民館運営協力員からの改善提案等を募り，活発な議論を重ねて行く必要があります。高齢化社会となり，ますますシニア世代が増加しています。その受け皿として各公民館の役割は大きいと思います。いろいろなサービスを検討して，良い交流の場づくりができればいいと思います。

（2）学校，家庭，地域社会の連携による教育の推進

開かれた学校づくりの推進では，市内小中学校13校の体育館，格技場，卓球場，グラウンドを開放し，定期使用サークル126団体，2,402人が登録され活動している。学校施設の都合で十分使えないこともある。一方，他市では，公共スポーツセンターでいろいろなスポーツを楽しんでいる。当市では，民間小規模施設があるぐらいです。ゆくゆくは，そのような施設も必要である。

青少年の体験学習の充実では，毎夏，中学生富士登山を実施されている。参加者100人，指導者30人で無事終わられた。自然に接し団体行動を学ぶ良い機会である。体力を備え多くの人に参加して喜びを味わってほしいです。

家庭教育の充実では，家庭教育講演会，家庭教育講座，就学時家庭教育講座が，開催されました。家庭教育の重要性が生かされることを願っています。

子どもは親の背中を見て育つと言われていています。全ては親の言動を見て育っていることです。親が先生となって行動することが重要と思います。今の世の中は大変複雑な面が多くあり，価値観も多様です。粘り強く取り組まれるようお願いいたします。

（3）学習活動・芸術鑑賞の場の提供と公民館活動の推進

芸術祭は，展示者の成果発表の場でもある。しかし，展示スペースが限られており，

規制も強いとの声があります。皆が楽しめる展示会を望みます。

夕べのコンサートは、長年継続されている催しです。多くの守谷市民が楽しみにしている夏のイベントです。残念ながら3日間の催しになりました。今後、いろいろ開催方法等検討を加えられ、地元の人達が更に楽しめる催しになる取組をしていただきたいです。

コミュニティづくりの推進では、毎年各公民館まつりが開催されています。数年前から社会福祉活動計画が推進され、名称も「地域ふれあいまつり」と改称されています。子供から高齢者までが楽しめる「まつり」になるよう企画されているところもあります。開催時期が、季節の良い時を希望する「公民館まつり」もありますが、現状では、開催日変更は厳しいようです。今後も、活発な「まつり」になっていくように期待します。

守谷ハーフマラソンは、年々盛況になっています。「東京マラソン」以降、各地のマラソン大会もブレイクして参加申込みが容易にできぬ状況が起こっています。守谷マラソンも同様のことと思います。参加された方は、日頃の練習の成果を楽しめるよう、また、大会関係者は事故のないよう細心の注意が必要です。今後も、楽しい大会に取り組んでいただきたい。

(4) 放課後子ども総合プラン

「放課後子ども教室」と「放課後児童クラブ」を総称し、「放課後子ども総合プラン」とし、その運営を一体的に民間に委託されました。「放課後子ども教室」は、週1回無料日を設定しました。現在、活動場所が飽和状態です。今後、無料日の有無、活動場所の検討が必要です。児童クラブは、平成27年度から6年生まで拡大したため、利用者が増え教室確保が必要です。何れも共働き家庭が増えた結果です。今後も、社会現象に対応できるように、関係者と十分に協議することが必要です。

6 図書館事業

多様な資料の収集・整理・保存について、市民1人当たり500円の資料費によって、図書資料16,549冊、視聴覚資料529点、雑誌317タイトル、新聞34種を収集しておられます。この資料費は、県内2位です。市民の頭脳になる役割を持っていることとなります。大いに利用すべきです。利用状況は、1日平均貸出者783人、年間の市民1人当たりの平均貸出冊数14.3冊です。また、インターネットで予約すると自宅近くの公民館図書室に届くサービスもあります。図書館と市民ボランティアの協働で読み聞かせ、本の修理、図書館まつり等を催し、利用の促進を図っておられます。今後、市民が利用し易い図書館目指して活動していただきたいです。なお、建設から22年が経過しており、計画的に施設改修が検討され、まずは空調設備の大規模修繕基本設計の準備です。市民が良好な環境で図書館利用ができるように、今後も取り組んでいただきたいです。

〈総括〉

教育委員会全体の評価について

守谷市教育委員会は、平成27年4月1日から市長と共有した総合教育会議設置、教

育に関する大綱，新教育長の任命，教育委員会の透明性等を加えた新体制でスタートしました。

守谷市教育目標「新しい時代をたくましく生きぬく人づくりを目指す」を掲げられ，学校教育プランとして5項目が設定されています。各分野では既に報告のとおり着実に成果を上げられています。学校設備は，以前と比べ大変立派なものになり，児童生徒が快適に学習する環境が整っています。全校にALT配置の結果，英会話に親しみ興味を持つ児童生徒が大変多くなり，大きな成果となっています。学校教育の英会話は，永遠のテーマと言われたことがあります，近い将来払拭されそうです。確かな学力では，少人数加配教員，学習支援ティーチャー増員の結果，生活学習習慣の確立や学力向上が顕著です。「いじめ」問題，悪質化した「ネットいじめ」では，教育委員会が一昨年から「いじめ問題重大事態調査委員会」を条例で設置し，早期発見早期解決に努め成果を出されています。あいさつ運動は，教員児童生徒との毎朝校門や昇降口でのあいさつ運動，保護者や地域の方々とのあいさつ運動等で，大変効果が現れています。学校と地域連携での学習，防犯，環境等のボランティア活動が活発に行われ学校から好評です。学校から発信するホームページ・メールマガジンは，早い連絡が図られ学校の様子が迅速に伝わっています。給食センター事業は，設備の老朽化が問題です。その中で給食数等が確保されています。今後，抜本的な設備，運営の検討が求められます。生涯学習事業では，高齢化に伴い各公民館利用者が増えています。良いサービスの検討，良い交流の場づくりが今後必要です。各公民館まつりは，地域の交流の場となり，今後も活発な活動を期待します。共働き家庭の増加で，学童クラブ利用者が増えています。年々増加が予測され今後，早急な対応が必要です。

以上，主な点を紹介しましたが，教育委員会は教育目標に沿って各部門とも適切な施策を推進されており，良好な成果を出されています。今後も守谷市民のため，しっかりした教育行政の管理，推進を更に押し進められるよう期待します。